



**Data**

監督・脚本：パク・フンジョン  
 出演：イ・ジョンジェ/チェ・ミン  
 シク/ファン・ジョンミン/  
 パク・ソンウン/ソン・ジヒ  
 ヨ/チュ・ジンモ/チェ・イ  
 ルファ/チャン・グァン/キ  
 ム・ビョンオク/キム・イン  
 ソ

## 👁️👁️ みどころ

『インファナル・アフェア』3部作（02年、03年）も面白かったが、本作もめちゃ面白い。潜入捜査官として8年間もヤクザ生活を送り、その幹部ともなれば、今や根っからのヤクザに？第34回青龍映画賞で主演男優賞をとった男がそれではダメと思うのが普通だが、さて本作は？

後継者争いからのスタートは『清須会議』（13年）と同じだが、こちらはソウル警察を交えた権謀術策の他、ヤクザ特有の「出入」もあるから忙しい。橋下徹大阪市長の「出直し市長選」の決断もすごいが、本作ラストに見る、潜入捜査官の「ある決断」はそれ以上だ。

こりゃ必見！『インファナル・アフェア』に続いてハリウッド版リメイクもあるのでは・・・？

— \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \* — \*

## ■□■まずは、潜入捜査官の今は？■□■

冒頭、椅子に縛られ痛めつけられている男から、「誤解だ、イ理事」「俺が組織を裏切るはずはないだろう。助けてくれ」と懇願する男を冷酷に突き放し、結局ドラマ缶づけにして海中に葬り去る男イ・ジャソン（イ・ジョンジェ）が登場する。昭和40～50年代の鶴田浩二、高倉健を中心とする日本のヤクザ映画の主人公は着流しだったし、「〇〇組」というヤクザの看板（＝代紋）が命だったが、いつの頃からかヤクザも企業化したことによって、その幹部も組長とか若頭とかと呼ばず、理事長、専務理事、理事等の肩書きになっているらしい。しかし、事前に目を通したチラシによると、本作は『インファナル・アフェア』3部作（02年、03年、03年）と同じようなテイストの「潜入捜査官モノ」とある。すると、上質そうなスーツ・ネクタイ姿でタバコを吸う仕草がやけにカッコいい長

身の男ジャソンがひょっとして潜入捜査官？しかし、潜入捜査官のジャソンが、なぜ韓国最大の犯罪組織であるゴールド・ムーンの理事という立場に？

本作ラストには、エンド・ロールが流れ終わった後、「8年前」という字幕の中、若き日のジャソンとチョン・チョン（ファン・ジョンミン）の2人が無茶苦茶な殴り込み（？）をかけるシークエンスが流れるが、ジャソンが8年間にわたる潜入捜査官生活の中でここまでの地位に登りつめることができたのは、ひょっとしてもともと警察官よりヤクザの方が向いていたのかも・・・？

## ■□ストーリーの軸は後継者争い。それを仕掛けたのは？■□

ヤクザ映画には葬式のシーンが多いし、豪華に挙行されるそのシーンはヤクザ映画によく似合う。脚本家として活躍した後、本作が2作目の監督作品となったパク・フンジョンは本作でも自ら脚本を書いているが、そのストーリーの軸は後継者争い。つまり、冒頭のシーンの後、ある日突然謎めいた交通事故でゴールド・ムーンのソク・ドンチュル会長が死亡したことにより、その後継者を決める必要性に迫られることになるわけだ。

三谷幸喜監督の『清須会議』（13年）は織田信長亡き後の後継者争いをめぐって、「これは、会議という名の戦である！」をテーマとした面白い映画だった（『シネマルーム31』174頁参照）。しかし、織田信忠の子供で織田信長の孫にあたる3歳の三法師が、秀吉の策略によって後継者に選ばれるという筋書きと結末は、歴史上の事実として誰もが知っているものだった。ところが、本作ではジャソンを「ブラザー」と呼んでいる調子のいい男



ながら、中国のマフィア関連の事業を一手に引き受けている組織No. 2の男チョン・チョンと亡きソク・ドンチュル会長の右腕だった組織No. 3の男イ・ジュング（パク・ソンウン）の2人が本命らしい。『清須会議』では当初柴田勝家が推す織田信孝と秀吉らが推す織田信雄の2人が本命だったが、結果的にはいつの間にか本命から三法師へと変わっていった。それと同じように本作でも、ちょっと年配ながら副会長のチャン・スギ理事（チェ・イルファ）の方が順番からすれば妥当だから、意外な逆転があるかも……？

部外者の私がそんな風の後継者の予想ができるのは、潜入捜査官のジャソンと連絡を取り合っているソウル地方警察庁捜査企画課課長のカン・ヒョンチョル（チェ・ミンシク）と、その上司であるソウル地方警察庁のコ局長（チェ・ジンモ）らの予想を聞いているからだ。なるほど、なるほど……。

清須会議が開かれたのは、信長の突然の死亡という全く予期しない歴史上の事実が発生したためだが、ソク・ドンチュル会長の交通事故はホントに偶然の事故？それとも誰かが仕掛けたもの……？それが問題の本質だが、それを口にすることができる人が誰もいなかったのは当然だ。したがって、盛大なお葬式の間に早くもハラのさぐりあいが……。

## ■□■三人三様のキャラと、その存在感に拍手！■□■

『インファナル・アフェア』は警察からマフィアへの潜入と、マフィアから警察への潜入が特徴だったのに対し、本作は「潜入捜査モノ」といっても、そのテーマは警察からゴールド・ムーンへの潜入一本にしぼっている。本作でジャソンは第34回青龍映画賞の主演男優賞を受賞したが、それは8年間の潜入捜査の中での苦悩と、ラストに見せる「ある決断」を見事にかつカッコ良く演じ切ったためだ。そして、私の目にはチョン・チョンを演じたファン・ジョンミンもカン・ヒョンチョルを演じたチェ・ミンシクも助演男優賞に十分値するものだ。

ブランドもののサングラスを自慢し、ニセもの的高级時計をジャソンにプレゼントするチョン・チョンの姿や、そのしゃべりを見ていると、一瞬「こいつはお調子モノ？」と誤解しそうだが、中盤にみせるカン課長との「交渉」ぶりや、顧問弁護士を活用してスパイ（潜入捜査官）を発見し、その始末をつける姿を見ていると、いやいやどうして、なかなかの頭のキレだ。ちなみに、韓国人俳優のファン・ジョンミンは本作で中国語をしゃべるのにかかなり苦労したそうだが、彼のしゃべる中国語は私には聞きやすかった。さらに、ヤ



©2012 NEXT ENTERTAINMENT WORLD Inc. & SANAI PICTURES Co. Ltd. All Rights Reserved.



©2012 NEXT ENTERTAINMENT WORLD Inc. & SANAI PICTURES Co. Ltd. All Rights Reserved.

クザ映画に不可欠の「出入」は本作中盤に、地下駐車場とエレベーター内を舞台として登場するが、そこでのチョン・チョンの暴れっぷりを見れば、単にカッコづけだけの男ではなく、武闘派としてもなかなかのものであることがわかる。



©2012 NEXT ENTERTAINMENT WORLD Inc. & SANAI PICTURES Co. Ltd. All Rights Reserved.

他方、本作では笑顔の一つも見せず、淡々と最後まで「きつい要求」をジャソンに出し続けるカン課長を演ずるチェ・ミンシク存在感は強烈だ。ジャソンもチョン・チョンもまだ若いせいかな時としてキレてしまい、怒鳴って詰め寄るシーンが登場するが、カン課長だけはいくら胸ぐらをつかまれて罵倒されても、それを淡々と聞き流したり、的確な反論を加えたり……。ゴールド・ムーンの理事にまで出世したジャソンでもカン課長の前では赤子のように見えるのは、叩き上げながら彼が犯罪組織ゴールド・ムーンを、警察官たる自分の手で操りたいという大いなる「野望」を実現するべく、情を棄てて邁進しているからだ。『オールド・ボーイ』(03年)でのものすごいアクションには驚かされた(『シネマルーム6』52頁参照)が、それから10年。ちょっと太り、おじさん風になった、韓国を代表する俳優チェ・ミンシクの、渋いけれどもメチャ大きな存在感に注目だ。

## ■□■No. 3はカッコだけ?ちょっと頭が悪い?■□■

No. 2のチョン・チョンは流暢な(?)中国語を操りながら、中国マフィアとの取引を独占していたから、ゴールド・ムーンに莫大な「実利」をもたらしていることまちがいない。しかし、No. 3のイ・ジュングはチョコチョコと顔を出してくるカン課長との会話を聞いていてもあまり利口そうには見えないうえ、具体的にどんな仕事をしてゴールド・ムーンにどんな実利をもたらしているのかもあまり見えてこない。むしろ、幹部を前に威張りちらし、朝食に幹部たちと韓国産の高級ステーキを自慢気に食べている姿を見ると、「こいつは、ソク・ドンチュル会長の提灯持ちとして可愛がられただけの男かな」と思えてくる。したがって、叩き上げで百戦錬磨のカン課長が突如発生したソク・ドンチュル会長の後継者争いを契機として、ゴールド・ムーンの壊滅を目指す(実はそうではなく、「くさび」を打ち込む?)べく、ある日強引に裁判所の逮捕状を得てジュングを逮捕したが、ホントに立件できる証拠は集まるの?もし、起訴できず証拠



©2012 NEXT ENTERTAINMENT WORLD Inc. & SANAI PICTURES Co. Ltd. All Rights Reserved.

不十分で釈放するような事態になれば、警察の大失態になるのでは・・・？ジュング自身がそう考えていたことは、逮捕状を見せられた時の反撃ぶりを見れば明らかだ。しかし、どうもカン課長の狙いは、警察のメンツなどは無視した、別のところにあつたらしい。したがって、結局最後は証拠不十分でジュングは釈放されることになったものの、その間にカン課長が描いたように事態は大きく進展。その第1は「俺のタイホは、チョン・チョンの差し金」、そう理解したジュングによるチョン・チョンへの襲撃だ。アメリカならこんな場合ド派手な銃撃戦になるところだが、本作ではいかにも韓国的なバットと刃物でのどつき合い、斬り合いの迫力を楽しみたい。エレベーター内で刃物を持った男たちに囲まれたら、普通はそれでジ・エンドとなるところだが、そこで発揮されるチョン・チョンの武闘派としての格闘能力は？なお、その襲撃はチョン・チョンのみならずジャソンの妻（キム・インソ）の自宅にも及んだが、さてそちらの方の首尾は・・・？

## ■□■いつバレル？とうとうバれた？万事休す？■□■

潜入捜査官は、いつ素性がバレるかもしれない、バレたらどうしよう？という不安と日々闘いながら、ヤクザとしての生活を送るわけだから、1日1日が大変。その大変さは『インファナル・アフェア』3部作でよくわかったが、ジャソンはそれを8年間も続けているのだから大変。しかも、本作で目立つのは最近チーム長から課長に昇進したという



©2012 NEXT ENTERTAINMENT WORLD Inc. & SANMI PICTURES Co. Ltd. All Rights Reserved.

カン課長の大胆さだ。ソク・ドンチュル会長の葬式会場に堂々と出かけて行って、イ・ジュンクを挑発した（？）かと思うと、今日はチョン・チョンを空港で出発直前まで事情聴取。これでは、中国への極秘出張という俺の行動がなぜカン課長に筒抜けに？これはきっと内通者がいるからだ。チョン・チョンがそう考え、一方では優秀な顧問弁護士を使って内通者の情報を集め、他方では中国の延辺から朝鮮族の殺し屋（キム・ビョンオク）たちを招集したのは当然だ。カン課長はジャソンに対しては、「どんな細かなことでも報告しろ」と命令するくせに、自分がこんな風に動いていることは全くジャソンに知らせないから、その後起きた事態にジャソンはビックリだ。

ジャソンが通っている囲碁教室の女性シヌ（ソン・ジヒョ）がカン課長との連絡係であることを突き止めたチョン・チョンは、殺し屋たちを使ってまずシヌを襲撃。そして、中国での仕事を早々に切り上げたことをジャソンに知らせないまま、国に帰ってきたチョン・チョンは、ジャソンを呼び出し、ドラム缶の中のシヌを見せて、内通者がいたことをジャソンに説明。さらに、チョン・チョンはもう一人グルの男がいることを側にいるジャ

ソンに告げながらショベルを振り上げたから、ここでジャソンが「とうとうバレた！万事休す」と覚悟を決めたのは当然だ。ところが、そこでチョン・チョンがショベルを打ち下ろした相手はジャソンではなく、カン課長がジャソンに秘密にしたまま潜入させていた、別の潜入捜査官オ・ソンムだった。この結末にジャソンは一人胸をなでおろしたが、ひょっとしてジャソンはあまりの恐怖感に小便をチビっていたのでは・・・？ことほど左様に、潜入捜査官の「いつバレる？」の気苦労は大変だ。

## ■□■エネルギー源は、韓国華僑という出自に？■□■

私は2009年11月6日～9日の中国廈門（アモイ）旅行の際、華僑博物館を見学した。この博物館は中国人なら誰でもその名前を知っているうえ、華僑の人たちにとっては神様のような存在である陳嘉庚氏が1959年に創建したものだ。それを見学すれば、海外華僑社会の歴史と現在の姿がよくわかる。その中に展示されているたくさんの資料を見ながら、私は華僑のことを詳しく勉強し、ユダヤ人と並んで華僑の力はすごいものだと思



©2012 NEXT ENTERTAINMENT WORLD Inc. & SANAI PICTURES Co. Ltd. All Rights Reserved.

感した（坂和総合法律事務所のホームページの廈門旅行記参照）。しかし、それでも本作を観るまでは「韓国華僑」の存在を知らなかったが、本作を正確に理解するためにはこの韓国華僑の実態をしっかりと知ることが不可欠だ。それはパンフレットに詳しく説明されているので参照してもらいたいが、エンドロール後にみる6年前のジャソンとチョン・チョンの姿を見れば、韓国華僑の出自をもつ2人がゴールド・ムーンの中でどんな苦労をしながらのし上がってきたのがよくわかる。中国は漢民族中心の社会だから韓国華僑をきつと差別しているだろうし、逆に韓国内では韓国華僑は「中国人のクセに」とバカにされていることが本作を観ればよくわかる。しかし、そんな出自こそが、ジャソンとチャン・チャンがヤクザとして生きるエネルギー源になっていたことも明らかだ。ちなみに、2月3日に市長を辞任し、「出直し選挙」を決断した橋下徹大阪市長の出自について、一時週刊誌があれこれと書きまくっていたが、それはどうなったの？正確な事実関係は知る由もないが、橋下市長のエネルギー源も、その出自の秘密にあるのでは・・・？

## ■□■この決断は、出直し市長選挙以上の決断？■□■

本作後半の焦点は、ジャソンが潜入捜査官であることがチョン・チョンにバレていたのか否か？ということになっていく。パク・フンジョン監督は、ハラハラドキドキさせながらその結論を先送りさせていくから、観客の目は否が応でもスクリーン上に集中することになる。イ・ジュングからの襲撃によって、今やチョン・チョンは虫の息状態でベッドに

横たわっていたが、そこに現われたジャソンの姿を見て嬉しそうに手招きしたうえ、「強くなれ。それがお前の生きる道だ」と伝えたが、さてその意味は？さらに、「俺が死んだ後、事務所の金庫の中に入っている書類を読め」と言い残して息をひきとったが、さてその書類の中には何が？そこからラストに向けての怒涛の展開は、大阪都構想の実現に執念を燃やし、公明党と大ゲンカしてまで市長を辞任し、出直し選挙に打って出た橋下徹市長の決断以上だ。組織No. 2のチョン・ジョンが死亡し、組織No. 3のイ・ジュンが釈放されたら、次期会長はジュンのもん？いやいや、逮捕によって一度求心力が低下すれば、再浮上はムリ？さらに、あっと驚く展開としてカン課長の策謀によって形

成されてきた、チャン・スギ副会長（チェ・イルファ）の会長昇格と、それを補佐するためのジャソンの副会長就任が、ほぼ既定路線？ゴールド・ムーンの後継者選びは、今まさに佳境にあった。

2月9日に開票された東京都知事選挙では、「原発の即時廃止」を旗印にした細川護熙・小泉純一郎という元首相コンビの登場に驚かされたが、猪瀬前知事の後継者選びの「権力闘争」ではまさに何でもありだ。もっとも、政治の世界では「一寸先は闇」だけで済むが、ヤクザの世界ではそこに暴力が絡み、いつ誰が誰に殺されるかというヤバイ面もある。さあ、そんな興味を持って、あっと驚く結末に向けての怒涛の展開を見ていこう。そうすれば、誰が見てもジャソンの「この決断」は、橋下市長の出直し選挙の決断以上！そう納得できるはずだ。



### 『新しき世界』

©2012 NEXT ENTERTAINMENT WORLD Inc. & SANAI PICTURES Co. Ltd. All Rights Reserved.